



ろーるぷれい

「Dちゃん、さっちゃん、さっくん、今からこの子達にやさしくディヴァンディヴァンしてあげてね♡」

「うーさっちゃん(おんげんげんげんげん)」

「トロンちゃん(い、今から何をやるのかしら。皆目検討もつかないわ。)」

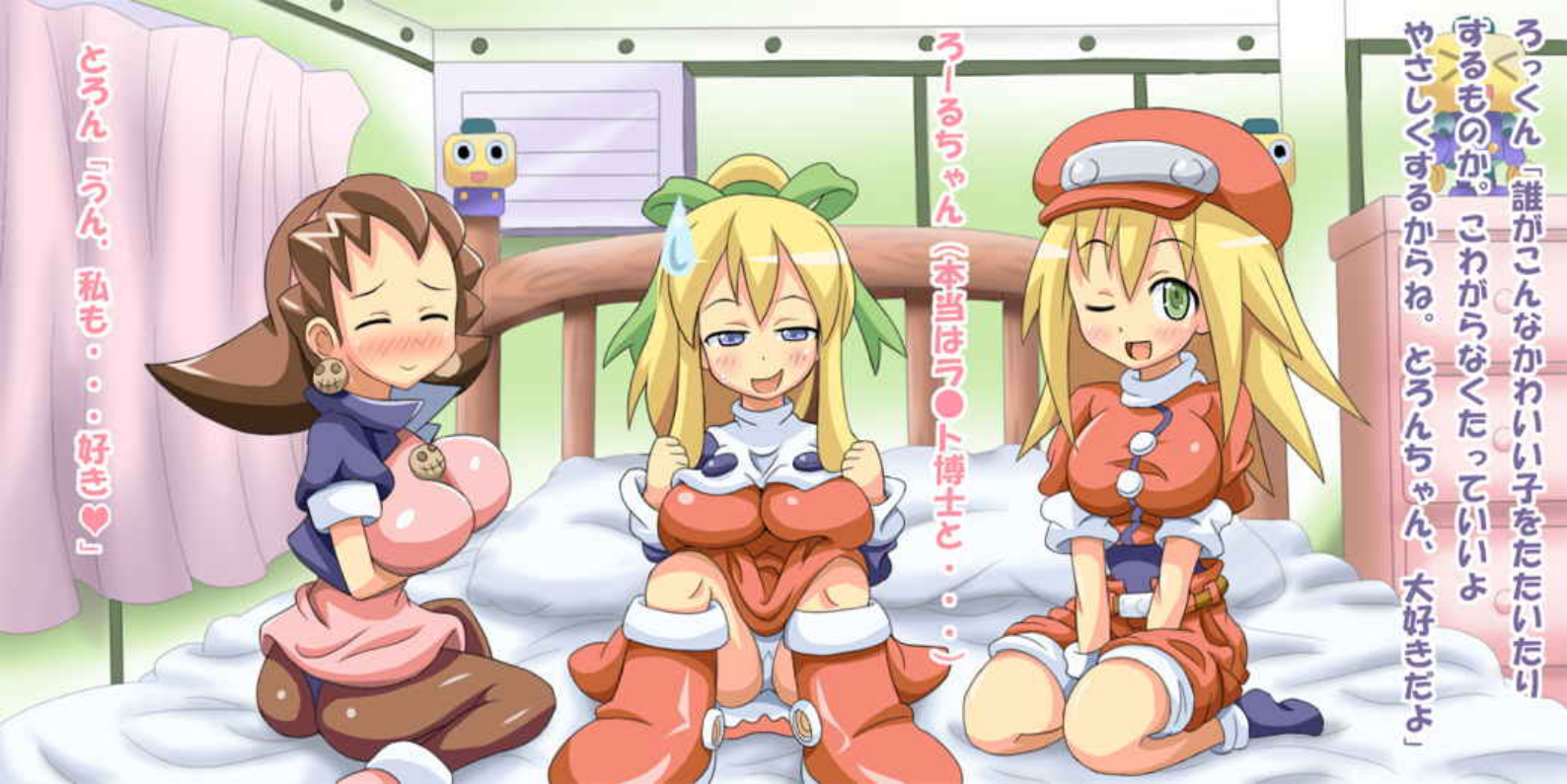


ろっくん「いい、いいのかい？一緒に冒険  
しても月ペタうだけだよ」すの冒険は  
初めてなんだよねっ？」

ろーるちゃん「うん、一緒に銅の冒険しよ  
ろーる初めてのだからぜひいっしょにっね♡」

とろんちゃん「い、痛いことしない？  
かみついたりたいたりしない？」

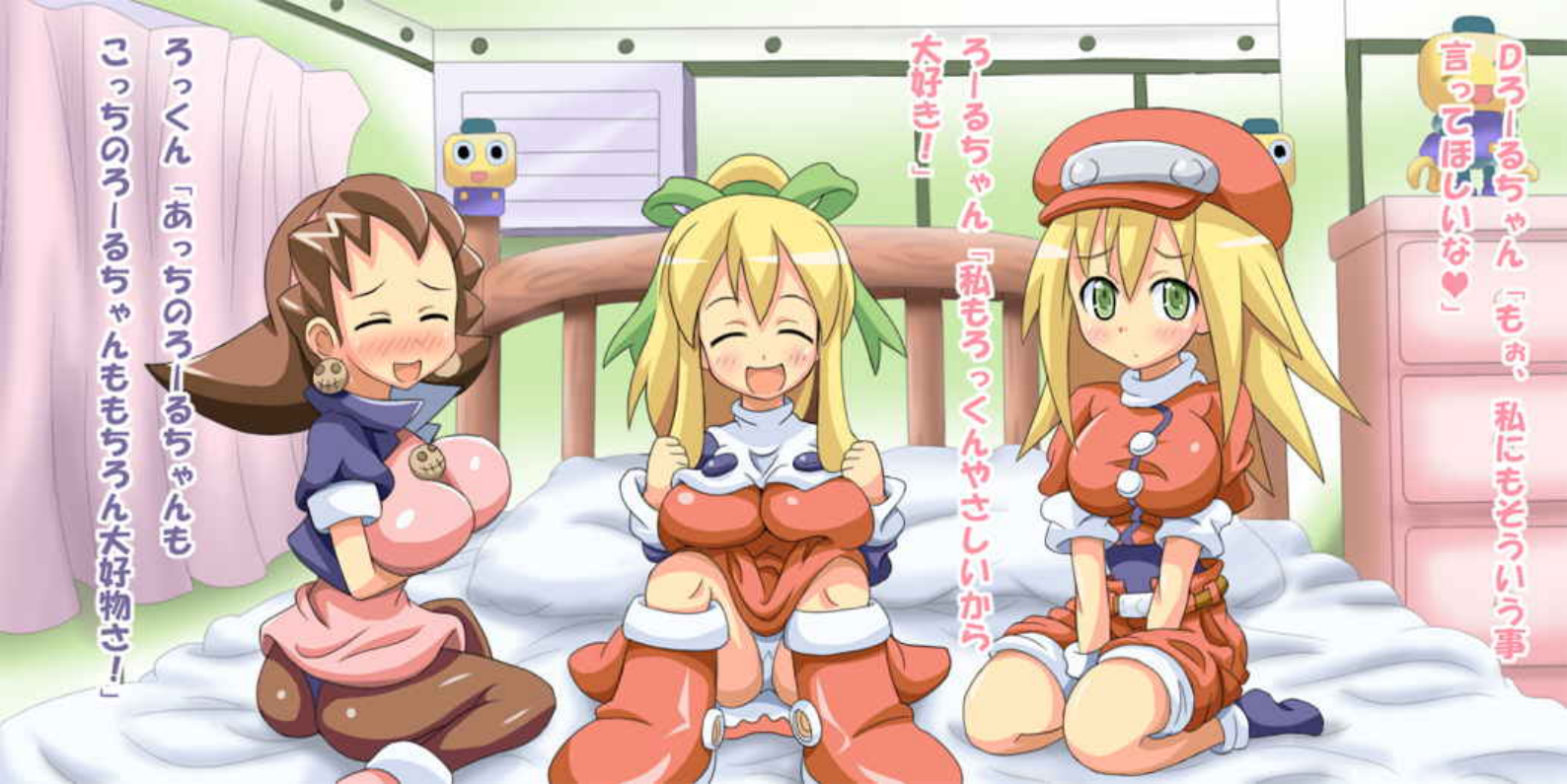




とろん「うん、私も・・・好き♡」

ろーるちゃん（本当はラ●ト博士と・・・）

ろっくん「誰がこんなかわいい子をたたいたり  
するものか。こわがらなくなったっていいよ  
やせにくするがうね。とろんちゃん、大好きだよ」



「あーるちゃんももちろん大好きさ！」  
「あーるちゃんももちろん大好きさ！」

「あーるちゃんももちろん大好きさ！」  
「あーるちゃんももちろん大好きさ！」

「あーるちゃんももちろん大好きさ！」  
「あーるちゃんももちろん大好きさ！」

ろっくん「い、意外と大胆だねあっちのろーるちゃんは。」

Dろーるちゃん「あっ♡んっ♡

そうね。。。どっても上手。。。んっ♡」

ろーるちゃん「えー。ろーる  
初めてだからわかんないW」

とろんちゃん（何かしないと。。。何かしないと。。。）



ろっくん」へっへっ！ちょっと待って！

そんな・・・激しくするぞ・・・くっ！

ローちゃん」あらかわいい、ローちゃん。

腕ないだりなんかしちゃうって今からデートかな？

ローちゃんのやりたいようにすればいいんだよ。」

もっ...  
もみ...

ローちゃん

ローちゃん「やっなるの？

これどうやってやるのかな？

ローちゃん「うーん、うん。」

なあWW」

ローちゃん「うーん、うん。」

(あの子初めてなのに上手で私何にもできないよあ・・・)



ろっくん「うーるちゃん……出るっ！」

Dロール「あんっ！」



うーるちゃん（えっなにさっマッシャーっ！）

ひびひ

きたきたw  
ロール（ひびひw）



ろっくん「はあはあろーるちゃんの手コキ最高だったよ…」

ローーるちゃん「はい、とっても喜んでました。

男の子は女の子のやわらかい部分を使ってこそすってあげると

とってもえっちなお汁が出ちゃうんだよ。

今度はお口を使い方を教えちゃうね♡」



ろーるちゃん  
「へーぞうなんだ」  
ためになるなあw

とろんちゃん（これがあいつの…）

あの子ので気持ちよくなって出たんだよね…

今度は私が…）

ろーるちゃん「ほあうあ♥二人とももっどくっついておあ。そのほうがりっくんとおーっでも気持ちいいんじゃないかな？」

ロローるちゃん「んぶぶぶっ？」

とろんちゃん（ねるろっ♥ねるろっ♥あいつ・・・気持ちいいのかな？）

ろっくん「うくっ・・・はあはあ・・・ごごは・・・天国かな・・・」



Dろーるちゃん（べろべろっ、この子私より上手？  
皮の中に舌入れてチンカス食べるの楽しみ  
だったのにい・・・ま、まあ初めて・・・だから  
別にいい・・・かな？）

ろーるちゃん  
（若いチンボから  
精製された  
フレッシュ  
チーズおいしいー♡）

（博士のも熟成されて  
好きだけとろっくんのは  
フリッとして食べやすく  
いくらでもいけちゃうな♡）

とろんちゃん（先っほ・・・特等席・・・はむっ

ここが一番気持ちいい場所なんだから♡  
私が・・・一番気持ちよくしてあげないで・・・）



ろっくん「ああっどろんちゃん先のほずろっく  
気持ちいいっっ！3人の顔にぶっかけ・・・  
うウッ！」

ドローるちゃん「ぎゃうんっ！」

ろーるちゃん

「どろんちゃん、お口で  
キャッチしてあげて♡」

どろんちゃん「んっんんッッッ！」

（やった！私で気持ちよくなってくれたっっ！）





ろっくん「やあ、なんだかおいしそうなおっぱいが  
いっぱい並べられてるね。どのおっぱいが  
おすすめですか？」

Dろーるちゃん「うちのおっぱいは  
弾力があって  
とってもおいしいですよ♡」

んん♡♡

ろっくん「これはミルクを搾り取る  
お仕事かな？」

とろんちゃん「今日入荷したばかりのおっぱいだけと  
ど…どうかな…?」



ろっくん（乳首がコリコリ硬かったり  
ぶにぶに柔らかかったり感度が違ったり  
それぞれ三者三様の違いがあってまた面白い）

「ろーるちゃん」ろっくん  
気持ちよけけさうな顔  
してさあ「♡」

ろーるちゃん  
「出」出  
「出」出  
「出」出

「いいよっ」  
出してっ♡

ごろんちゃん  
「あんださうけさうな顔してるおま  
そんなにもちいいのかしら？」

ろっくん（目の前に計6つのおっぱいが  
並べられていてそれだけで  
射精してしまいそう。もう出るっ！）



ろっくん「ろーるちゃんのパイズリで……  
びるっっっ！」

ロローるちゃん「ぎゃっ！」

ろーるちゃん

「おーっ♡

いっばい出るヨ

ドクドク

ごろうなちゃん「ずいっ！いっばい……」

ろっくん「うう……ろーるちゃんの

おっぱいで搾り取られてしまった……」





「ひろーるちゃん」もあろっくんでは

出しすぎだよあ♡ふふっそんなに気持ちよかった？」

ろっくん「多分見てるだけでも出そっかさ」



とろんちゃん「ばいずりっていうんだ」

こんなやり方もあるのね・・・

ちょっとおもしろいかも・・・♡」

ろっくん(あっちのろーるちゃんは空を眺めていた。彼女はどこからやってきたのだろう。遠い人のように思える。そんな事を考えていたら何故だか彼女のお尻にぶっかけたくなった)

(こっちのろーるちゃんど、とろんちゃんの尻をもみしたいってると何故だか彼女達のお尻のあれを引き裂いてやりたいくなった僕は変態ではないので彼女達の了解を得て息を荒げながら笑みを押し殺しつつ裂いた)



ろっくん「ふおおっっ！なんという

お尻パラダイス！薄い生地を

切り裂く事で得る何ともいえない征服感！

男のロマン！僕は生粋の変態ペロリスト

かもしれない！」



（僕の思いが通じたのかろーるちゃんも

おぼんつを半脱ぎしてくれた！

シリィの神よ。貴方の尻心に感謝します！）

まお  
まお  
♡

クニクニ  
♡



ロローるちゃん「ね、ねえろっくん  
そろそろ私達にその・・・」

ろっくん「入れてほしいんだね？」



ロローるちゃん「私は最後でいいから・・・」

まきはろちゃんから入れてあげて。

この子さっさとさっとなっちゃってさっさと

思っの、働いてあげてね♡



とろんちゃん「あんっ♡あっアッあっ！  
おちんちんすごいいっ！すごいわぁ！  
ろっくんにおまんこ突かれちゃってさよあ♡」

ろっくん

「気持ちいい？  
大好きな  
男の子に  
突かれるの  
気持ちいい？」

んんんんん♡  
んんんんん♡  
んんんんん♡

とろんちゃん

「あっあっあっ♡

気持ちいいわぁ！

んんんんん♡

「僕も気持ちいいよッ！」

とろんちゃんのおまんこぎゅうぎゅう締め付けてきてさっでも気持ちいいよッッッ！」

「ほんとっ？」

嬉しいっ！

もっと気持ちいいんよッッッ  
なってっ♡」



「私のおまんこで」

もっと気持ちいいんよッッッ

「気持ちいいんよッッッッッッッッッッッ」







「いくよっ!とろんちゃん!

うウッッ!

「熱ッッッ!はでめっ!

どじるよほおっ♡

ろっくんの

熱いよおっ!

あん

「もっとかけてえっ!

私の体の隅々まで

かけてえっ♡



「あっ・・・ああっ・・・♡  
これが・・・しえっくじゅ・・・♡  
はああんっつっつ・・・」

「はあっはあはあ・・・」

はあまっ  
あまっ

んっ  
んっ!

ろっくん・・・  
なかも・・・  
いれへえ・・・♡



「とろんちゃん!とろんちゃん!」

「うっくん!  
好きいいっ!  
好き好きいいっ!」

IP  
Fw  
IP  
Fw

あ  
あ

あ

「おちゃんほミルク」

きゅうきゅう

「絞り取らせてエエッ!」





「あはあああんんんッッ！  
でてるッッでてるうううッッ！  
熱いのがビュクビュクってエエッ！」

あーッ！！

「ほああっ  
きもていいい  
よおおッッッ！」

ビュクビュクッ♡  
ビュクビュクッ♡



「あんっ♡ あんあんあっあっあっ♡  
あんやっあんひあっ♡」

「ろーるちゃん!!  
ろーるちゃん!!」

「あはんっ♡ほうんっ!  
もっときもちよくなるようにっ♡  
感度の調整を変えるわっ!」

はあ  
はあ

「調整?調整ってなんだい?  
すくくきもちいいよ、ろーるちゃん!」





「いひひひっ!あうんっ♡

あうんっあうっあうっいひっ♡うひっ♡」

はっはっはっ♡

「ろーるちゃん?

ろーるちゃん?」





「熱いよおッッ！」

あん♡

いっやあ

「いっやあああッッ！」

「うーるちゃん、ぶっかけるよっ！」

あははは



「ろーるちゃん大丈夫？」

「さっきすごい感じてたよっな……」

「入れて……♡」

はふはふ♡

「んっ……」

「もっといっぱい」

「あほあほ♡……♡」

「きひひひッ！雌豚だよっ！  
ろーるはおにいちゃん専用の  
雌豚だよっ♡ていひひひッ！」

あうん♡♡

「ろーるまんこはおにいちゃんを  
きもちよくするためにつくられた

めーきなんだからねっ♡ウエヒヒッ！」





「あんあんあんっおほっ♡  
あひっうひっへひっ♡  
あへあへいひっ♡おふウッ!  
えへへへへっ!」

あふ♡♡

あふ♡♡

あふ♡♡

あふ♡♡

あふ♡♡

「うーるちゃん!」

「おはようおはよう!」



「あああああっっっ♥♥♥んんんツツツツツツ!!!」

んああお

んが

んああ

「いっくくくくくくあああっっっっっ!!!」

んんんんんん

「あっあんあんやっあんっ♡」

あ♡

あん♡

「待たせてしまって

「いめんね、ろーるちゃん」

「いいいのっ！」

「まってるほうが興奮……」

「するからっっ♡」



「ろーるちゃんのまんこはやっぱり落ち着くなあ  
何回やっても飽きないよ。」

はっはっはっ♡

「ぞ、それは何度も突かれて私のおまんこが  
ろっくん好みに型作られたからっ♡……  
ろっくん好みのハンドメイドオナホール  
なんだからっ♡……あんあんあっっっ♡……」





「ぞろぞろ出すよっろーるちゃん！」

あん

あん

「ほんっあんあっあっあっ

あんあんあーっツツツ！」

あん

あん







「はあああっっっ♡……しゅんごいよおおっ……」

はあ

はあ

「はあはあはあ……」

「こんなに出したのに

まだ元気だね♡……」

「あんっ♡、もっかい出しとくっ  
いいよっ、ろっくんの気が済むまで  
何度でも出していいからねっっ！」

あん

(何度でも……  
ろーるちゃん・最高だっっっ！)

ズ  
♡

ズ  
♡



「うーるちゃんまで出て出して欲しい!」

う...あ

はあん

「あんっ、なかにいっ

私の中にどぴゅどぴゅ熱いホワイトソース

注ぎこんでえっっっ!」

ズ

ズ

ズ











「どろーるちゃん  
どろろどろろくん  
開発したい物が  
あるんだけどおwww」

「ろろくん」むっ卑怯だぞっ

ん  
ん  
ん

ん  
ん

ん  
ん



正々堂々と勝負しろ！これが男の闘い方だ！

なかあし！  
なかあし！

あぁ

むっ、とんできたな！

「真！岩男拳！」

「イクイクイクイク♡♡♡」  
アあああーッッッッ！！





みんな疲れて力尽きちゃったみたい♡

うーるほろほーとだからまだやれるんだけど残念！

へへー、ここ特等席なんだよ、おちんちんを

ふとももおまんこさんどしてあげるぞねんねしてるのに

元気よくおっきおっきしちゃうんだよ♡



(もうちょっととこっちの世界にいようかな  
こっちのろーるちゃんはおねーちゃんか  
できたみたいで嬉しいし)

(とろんちゃんも恥ずかしがりやさんだけで  
私のおねーちゃん!)



(あ、おちんちんさんひくひくしてきた♡……  
これはいくんだね？いっちゃうんだね？)



(ろーるにはわかるよ……  
おちんちんさんはまだ出し足りないんだね♡……)

(おちんちんさんいいよっ! ろーるのおまんこさんとに

はさまれて金玉精液空っぽになっちゃえ!)



(おっほおおおおおっつツツ!  
びゆるびゆる残り汁ううううツうう!)  
♡♡♡

ビュルルル

ゴウ!



(はあはあ・・・みんないっぱいえっちしたね♡・・・)

(ろーるもねむくなっできちゃった♡・・・)



(また…起きたら…みんなどえっちなこと…  
しよう…ね…)

(おや…す…み…)

